

PRIDE

港区立白金の丘中学校

～白金の丘中9年生の誇りをもって～ 令和 2年 5月 1日

苦しい時こそ夢を

～新聞から～

「中にお父さんがいるの。捜していい？」10歳の少女、なこちゃんは映画館の入り口でときどきしながら切符切りの女性に尋ねた。1960年代の東京・池袋。中に父などいないが、映画館で毎日映画を見ることができた。

母と離れ、日雇い労働の父と2人で1泊100円の簡易宿泊所を転々とする日々。学校にも行けない。「今の学校は映画館」と思うことにした。

もうすぐこどもの日。こんな時だからこそ、たくさんの子供たちに読んでほしい本がある。児童文学作家、上條さなえさんの自叙伝「10歳の放浪記」。コロナ渦で困窮する家の子、学校でいじめられ、休校後の再開が不安な子もいるだろう。

時代は違う。けれど、この本は生きる勇気を与えてくれる。

なこちゃんは、いろんな人に与えられた。水たまりで転んでパンツがぬれた時、自分のを貸してくれた同級生のかおり。母は米軍相手の商売をしているらしく、寂しい思いをしていた。遠足でお菓子を持っていけなかった時、誰にも分からぬようガムやキャラメルが入ったビニール袋をすばやく押しつけて立ち去った二郎。

なこちゃんは父とも別れ、福祉施設で暮らす。壮絶ないじめも受けるが、負けなかった。上條さんがなぜ、この本を書いたのか。支えてくれたかおりや二郎。そんな人がいれば強く生きられる。後書きにこうある。

〈わたしの十歳の日々を支えてくれた二人の同級生に、この本をささげます。〉

なこちゃんが映画館で見た「アパートの鍵貸します」で主演男優がバーのカウンターでマティーニをおいしそうに飲んでいた。〈いつか、あの「マティーニ」を飲もうと決めた。その夢のために、今この生活に耐えようとおもった〉

上條さんは小学校教員を経て作家になり、35歳で本誌主催の「小さな童話大賞」で賞を受ける。副賞で初めて海外を旅行し、コペンハーゲンのホテルで口にした。

わたしも本誌の読者向けの講演を依頼したことがある。この時も「子供たちに、夢をもってほしいと伝えている」と話していた。

苦しい時こそ、夢を。今、まさにその時である。

～4月30日・毎日新聞夕刊 花谷 寿人～

♪「自分に プラス ワン！」 ～一人でがんばるみんなへ～

【生活面】健康に注意して、規則正しい生活をする。

【学習面】提出日が近づいています。課題の整理をしましょう。

①4/6～4/13の課題→（始業式に袋に入れて配布）

②4/13～の課題 ③4/20～の課題 ④4/27～の課題

※やり残した課題がないか、丁寧にチェックしましょう。

【保護者の皆様へ】

ホームページで、お知らせした通り、現時点では、休校期間が5月10日まで、延期されました。今後のことにつきましては、ホームページ等でご確認ください。

なお、健康チェック日は、5月8日（金）の11時～12時です。

